

脈々 <sup>スピリッツ</sup> 高蔵 魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「人としての嗜<sup>たしな</sup>み」

他人に危害を及ぼすのでなければ、どんな服装、どんな言動をしようと勝手とでも考えているのか、傍若無人な若者が目につく。周囲の大人が眉をひそめていることには全く気づかない。

社会の一員としての自覚を持ち、他人に不快感や嫌な思いを与えないのを「嗜み」という。節度や責任のない「自由」は、小児的な「恣<sup>わがまま</sup>意」に過ぎない。

離<sup>り</sup>群<sup>ぐん</sup>索<sup>さつ</sup>居<sup>きょ</sup>を許さざるは人の天性にして、人は如何なる未開の時代にありても、必ず社会を作りて其の中に住み、互いに相<sup>よ</sup>倚<sup>り</sup>相<sup>よ</sup>助<sup>け</sup>て生を営む。 (「藪椿」7-5)